

メインテーマ：知る！わかる！動脈閉塞と下肢潰瘍

2018年5月12日（土） 山形テルサ 3階研修室A

9：00～9：05 開会の挨拶：大会長 日野岡 蘭子（旭川医科大学病院）

9：05～9：40 基調講演：日野岡 蘭子 先生（旭川医科大学病院）

「虚血性潰瘍の見方とケア～スキンケアから創傷管理まで～」

9：40～10：25 特別講演：内田 恒 先生（札幌厚生病院心臓血管外科主任部長）

「虚血肢に対する外科的血行再建治療の実際～血管外科医の考え方～」

10：25～11：15 演題発表：座長 中山 佳之（一般財団法人住友病院）

井上 由美子：当院におけるうっ滞性皮膚障害を診断された患者へ対するバンテージ療法指導の実践報告

餌取 将臣：重症下肢虚血に対して血行再建術後にNPWTを施行し多職種共同により治癒に至った事例

種子田 裕美：心臓血管外科病棟におけるカンファレンスの実際と課題

溝部 昌子：血管看護としてのスキル・ケア・コンピテンシー

-実践者によるフォーカスグループディスカッションでの検討-

藤島 彩加：TEVAR後に対麻痺を発症した患者への関わり方～一症例を通し障害受容のプロセスを学ぶ～

11：20～12：20 ハンズオンセミナー：創傷管理の極意～陰圧閉鎖療法の基本とケア～

12：20～12：25 閉会挨拶：溝部 昌子 日本血管看護研究会代表世話人

（西南女学院大学 保健福祉学部 看護学科）

12：30～13：30 平成30年度 第1回日本血管看護研究会総会（昼食会）

### 日野岡蘭子大会長よりメッセージ

この度は、山形で開催されました第3回血管看護研究会にご参加頂きました皆様、ありがとうございます。また、参加できなかった皆様も、次回はぜひご参加のご検討を宜しくお願い致します。

今回の研究会は、「知る、わかる、動脈閉塞と下肢潰瘍」とのテーマにおいて、札幌厚生病院、心臓血管外科主任部長の内田恒先生に特別講演をお願い致しました。わかりやすく動脈閉塞疾患とその治療、また看護師に期待することと課題を述べて頂き、好評を得ました。ハンズオンセミナーは、ニーズがどの程度あるのか見切り発車的なところも多々ありましたが、参加者は積極的にご自身の腕などでデバイスの使用感を実感して頂いたことと存じます。

この血管看護研究会は、様々な形で血管の疾患に関わる看護師が集まっております。他では同様の領域が集まる学術集会が多い中で、普段は交流することのない領域の看護師の方々と、ゆっくり集う事が出来る貴重な会と認識しております。参加者は多い方が良いのですが、こちらでは少人数ならではの良さもあり、アットホームな中で普段抱えている苦勞や悩みなどを共有しやすいと感じます。

今回の研究会では、成果とともに課題も見つかりました。総合病院とクリニックに勤務する看護師の共通言語は何か、臨床での疑問と教育での疑問は合致するのか、多職種との関連をどう構築していくのか、看護師だけで解決できることはありますが、他の専門職との協働は今後不可避なものとなっていきます。疾患ではなく、領域でもなく、「血管」というキーワードであるからこそ、様々な人たちが集まれる場所でありたいと思っております。

次年度の研究会も今からとても楽しみにしております。必ずしも血管看護の領域が希望する部署ではなかった方もたくさんいると思います。しかし興味を持てるのがもっとある、ということも、今回主催した私達は実感いたしました。それをより多くの方に伝えていきたいと考えています。

日野岡蘭子（旭川医科大学病院）

### 全体の概要

□日野岡蘭子大会長による開会挨拶のあと、基調講演をいただきました。皮膚・排泄ケア認定看護師、特定行為研修修了者としての実践から、虚血性潰瘍のある患者について、皮膚の状態や創傷の評価方法、ドレッシング材や軟膏の選択、交換方法など実践的かつ具体的な情報をご提供いただきました。参加者にとって、血管患者にかかわる看護師の役割や専門性についても示唆を得るものが多いものとなりました。

□内田恒医師より虚血性病変に対する治療の多様化と外科的な管理について系統的な講演をいただいた。さらに、血管診療に携わる看護師への期待や課題をご提示があり、励ましを得ました。



二つのご講演は学ぶ資料の少ない血管看護師にとって貴重な情報源であり、教材としての配布・共有を予定しております。

□演題発表は、弾性包帯着用の指導について材料や患者の生活に応じた指導方法の実際について、虚血性難治性潰瘍に対する陰圧閉鎖療法と回復の過程、カンファレンスによる末梢動脈閉塞性障害患者のケアの充実の取り組み、血管看護師が考える血管看護師のコンピテンシー、TEVAR 後対麻痺患者の再起のプロセスについての5題でした。血管看護師とは言え、すべての血管看護をいつも多く経験しているわけではないので、これらの情報がそれぞれの実践に役に立つ可能性のあるものばかりでした。

□ハンズオンセミナーでは、KCI 株式会社様、スミスアンドネフューウンドマネジメント株式会社様のご協力により、陰圧閉鎖療法の消耗品も含め様々な実機 20 台程ご用意があり、デモンストレーションをいただいた後、参加者全員が体験させていただきました。創傷管理は治療方針によりますが、患者の療養の場所の多様化を考えると血管看護師のスキルの一つとして重要視されてくるものと思われまます。

□総会ではいくつかの議案を審議・承認していただきました。課題として、研究会誌の発行、会費の徴収方法の改善が挙げられます。なお、第4回日本血管看護研究会は、第47回日本血管外科学会学術総会（古森公浩大会長）とともに名古屋で開催予定で、本会は田中理子さんを大会長と致します。

□今回はご希望の方とランチボックスで昼食をとった後、自己紹介と連絡先交換を兼ねた意見交換をしました。多くの方が前日からの宿泊で山形にいられておりゆっくり話す時間をとるのは難しいのですが、毎年拝見する顔触れもあり、それぞれの1年を感じる行事になりつつあります。

□日本血管外科学会学術総会大会長並びに事務局関係者の皆様に深謝いたします。また、会の運営にご協力くださっている会員様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。（溝部昌子:西南女学院大学）



### 参加者アンケート結果

参加者は31名で、内会員が18名であった。背景は、病棟勤務者が多く、外科系、循環器系の部門が多かった。基調講演、特別講演、一般演題、ハンズオン、全てのセッションでほとんどが役に立ったとの評価であった。しかし、少数ではあるが「あまり役に立たなかった」との回答があり、血管看護領域の幅広さから、テーマと自身の注目する内容から少しズレが生じるという結果であったことが示唆された。また、今後取り上げて欲しい内容に関しても、血管と栄養、患者教育、フットケア、運動療法、大血管系などの様々な領域から要望があった。また血管看護の知識や技術向上におけるキャリア形成などの要望もあった。（中山佳之：一般財団法人住友病院）

